

全学 FD 研修を実施しました

今年度の全学 FD 研修は、主に新任教員を対象とし、全 2 回のプログラムで実施しました。対面形式で実施し、第 1 回と第 2 回の間にはオンデマンド形式による事前学習の機会も設けました。第 1 回研修はオリエンテーションとし、参加者間の自己紹介や後半に実施する「授業デザイン研修ワークショップ」につながるプログラムを実施しました。第 2 回は、「授業デザイン研修ワークショップ」をテーマに 9 グループに分けてのワークショップを実施しました。「協働でシラバスづくり」では、全学初年次教養科目である「地域とエネルギー（1 年生・前期）」を対象とし、講義内容や履修者数等、具体的な条件を付けてのシラバス作成に取り組みました。文理混合の各グループの教員からは、工夫に富んだシラバス案が発表され、参加教員間で情報共有がなされました。また、研修終了後には懇親会を実施しました。懇親会では、多くの参加者のもと会場内各所で懇談・談笑が飛び交うなど、大いに盛り上がりを見せました。

授業アンケートを実施しました

前・後期期間中に授業アンケートを行いました。「学生の授業に対する理解や関心の度合いについて問う項目」、「学生の身に付いた力や授業方法について問う項目」からなる計 8 項目のアンケートを実施しました。アンケートの内容と結果の詳細については FD 活動のページより学内限定でご覧いただけます。次年度は授業アンケートの実効性の向上、アンケート結果の活用方法、アンケート回収率の向上等を引き続き検討予定です。

FD セミナーを開催しました

12 月 14 日（土）に、「教育現場での生成 AI 活用リテラシー：教員と学生の実践例から学ぶ」をテーマに FD セミナーを開催しました。生成 AI を英語科目のライティング指導などで活用している国際学部の後藤一章准教授による事例発表や生成 AI を学修や研究のほか就職活動などでも活用している学生からの事例発表を行いました。参加者からは、「生成 AI を活用した授業の実践例を聞くことができ大変有意義でした。」「今後の授業に対する AI 導入の検討に有用な情報を得ることができました。」「学生が ChatGPT をどのように使用しているのか、実践例を基によく理解できました。」等の意見がありました。生成 AI の利活用に関する理解を深めることができました。

全学 FD フォーラムを開催しました

3 月 14 日（金）に、大阪工業大学および広島国際大学の共催で京都大学大学院教育学研究科の西岡 加名恵教授をお迎えし、「大学教育におけるパフォーマンス評価の可能性」をテーマに全学 FD フォーラムを開催しました。前半は、知識やスキルをリアルな状況で使いこなすことを求める評価方法であるパフォーマンス評価を大学教育のカリキュラム改善を進めるうえで、どのように活用できるのかについて西岡氏にご講演いただきました。後半は西岡氏と摂南大学、大阪工業大学、広島国際大学の教務系部長による「主体的な学びの評価の在り方とカリキュラム改善」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

各学部・センターの今年度の FD 活動

理工学部

(1)「2024 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

理工学部教員表彰推薦委員会が対象者を選定し、学部長に推薦した後、学部長により表彰します。第 1 部門「教育貢献」の中に、授業アンケート評価による推薦を実施しています。アンケート項目は、Q5～Q7 の合計ポイント数を評価対象としています。

Q5：あなたは、この授業の内容を理解できたと思いますか？

Q6：あなたは、この授業に興味や関心をもつことができましたか？

Q7：教員は、この授業内容を理解させるための工夫をしていましたか？

【選考基準】

- ・理工学部所属の専任教員 1 名、非常勤講師 1 名
- ・理工学部学生を対象とした授業科目
- ・アンケート回答者 30 名以上、回答率 30%以上
- ・実験・演習等の複数授業担当は対象としない
- ・昨年度の第 1 部門授業アンケート受賞者は対象としない

2024 年度の表彰は、2025 年 3 月 13 日に開催される理工学部 FD フォーラム内で発表。

(2)2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

理工学部では、2024 年度初めに FD 委員会のミッションが下記のとおり、理工学部長によって策定され示されました。理工学部 FD 委員会は、これに従って、2024 年度のプランを設定して活動しました。

【継続】授業アンケートの回答率向上策の検討

【継続】FD 推進委員会からの依頼事項への対応

【継続】新しい教育手法を試す教員への支援方法など、FD 活動活発化のための検討

【継続】授業公開の実施、見学結果の活用方法（授業改善の見える化）

【継続】FD フォーラムの開催

中期目標【行動計画】、学長方針とのリンク

【中・2】学習成果の可視化に基づく教育改善（FD・SD 活動）を組織的に強化する

【学・（2）・②】FD/SD 活動の強化：「主体的・自律的学び、対話的学び、深い学び」のための教育デジタル変革の推進、学修方略改善（反転授業＜ブレンディッド授業＞、完全オンデマンド授業の推進）、教員の教育スキルの養成（コーチング力、ファシリテーション力等）

以上のミッションについて、それぞれ活動を行いました。実績については以下の通りです。

- ・ 2024 年 6 月 17 日（月）～7 月 26 日（金）に前期授業見学期間を設定し、全教員に 6 月 11 日付メールで案内しました。授業見学の報告方法を、Forms アンケートによる WEB 報告としました。報告においては、対象の授業を行う教員への意見や感想を述べるのではなく、自身の授業改善に関連する感想・意見を記入することに重きをおき、かつ、教室名や入室退室時間などの項目を削除して、できる限り、簡便かつスムーズに報告できるアンケート項目に変更することを決定しました。

- ・ 後期の授業見学は、昨年に引き続き、各学科の卒業研究発表会・審査会とし、2025 年 1～2 月に開催しました。学部全体で実施することで、学修成果の可視化に基づく教育改善を組織的に強化しました。
- ・ 理工学部 FD フォーラムは、2025 年 3 月 13 日に実施、テーマは「卒業研究発表会・審査会などの見学アンケートのまとめと意見交換」です。

(3)FD 活動を教育改善に反映する仕組み

- ・ 授業アンケート結果は、各学科の FD 委員を通じて学科にフィードバックし、授業改善に活用しています。
- ・ 2024 年度 FD フォーラムでは、後期の授業見学として実施した卒業研究発表会・審査会のアンケートのまとめについて共有し、意見交換しました。また、後半には、理工学部の FD 活動をより発展させるための意見交換会を行いました。

国際学部

(1) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

■Teams チーム「L 部遠隔授業事例紹介・情報共有」(通年)

コロナ禍の時期に設置し、現在も各チャネルを維持しています。対面化が進む中で、今年度は活用機会がなかったが、今後、遠隔授業の導入などにともなって、非常勤講師からの質問に専任教員が回答するという事態も予想されます。このため、当該チームは引き続き維持したいと考えています。



■国際学部独自の授業公開（見学）

今年度は 11 月を期間として指定し、学部授業公開（見学）を実施しました。対象授業は特に限定せず、見学を希望する教員が当該授業の担当教員に対して個別に打診し、了承を得られた授業について見学を行いました。結果、演習科目を中心に 8 件の見学を行いました。

■2024 年度 国際学部 FD フォーラム

テーマ：「国際学部 3 年目の教育実践―「協働学習プロジェクト科目」社会共創領域を中心に」

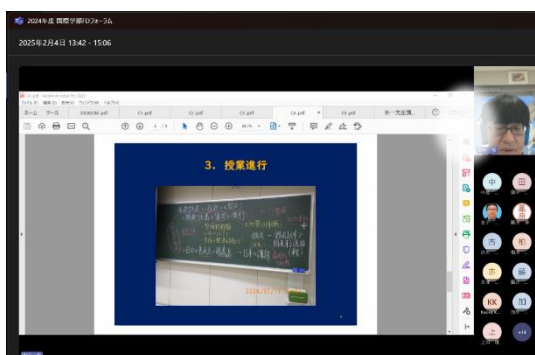
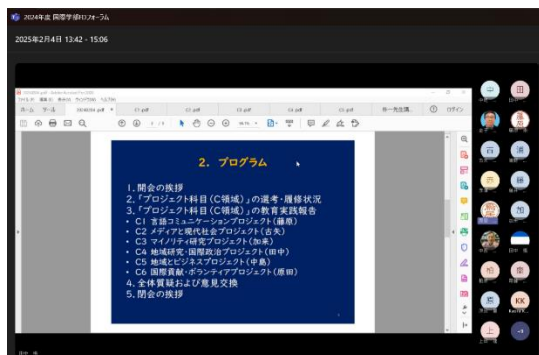
趣 旨：本フォーラムでは、国際学部 3 年目を終えようとするタイミングに合わせ、これまでの教育実践の報告をもとに、現状における成果についての情報共有を進め、また今後に向けた課題について議論しました。また、質疑応答や意見交換の時間を十分に確保し、広く学部教員が学部 FD 活動に参加できる機会としました。

実施日：2024 年 2 月 4 日（火）教授会終了後

実施形態：Teams「L 部会議」にてオンライン開催

発題（報告）者：協働学習プロジェクト科目「プロジェクト科目（社会共創領域）」（6科目）担当者

発題者は、あらかじめ教育実践に関する報告資料をアップし、フォーラムではその補足説明を5分程度行ないました。その後、それらをもとに参加者全員による情報共有および意見交換を行いました。なお、フォーラム後には、Formsによるアンケートを実施し、結果についてはFD委員会で取りまとめ、教授会において報告しました。



(2) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

今年度は、学部独自の授業見学を実施し、対象授業を指定することなく幅広く見学することを可能な形としました。結果として、演習のように同一名称で多数のクラスを設定する授業の相互見学の事例が多く集まり、教育実践の経験を交換する貴重な機会となりました。

また、本学部で開講された授業から得られる身近な実践知を共有する場として、学部FDフォーラムを企画しました。「講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する」ことを想定する協働学習プロジェクト科目において、学生主体のグループワークをどのような方法で組むか、その際の課題は何か、また想定通りに進行しないときに教員がどのように介入すべきかといった諸点について、本学部教員が科目担当教員から学ぶべきことは少なくありません。フォーラム後のアンケートでは、上記の諸点について感想や意見を記入してもらい、教員へのフィードバックを行ないました。こうした活動を通じて、FD活動を来年度につながる有意義なものとしていきたいと考えています。さらに、全学で行なう授業アンケートについても、学部教員からフォームを使って活用事例のアンケートをとり、事例共有を行なうことを以前より実施してきました。本年度もこれを継続したので、教育活動の改善を促す材料として今後も活用していきます。

《国際学部・外国語学部》授業アンケート活用についてのご質問

次の①②のいずれか、または両方に回答して下さい。

アカウントを切り替える

共有なし

①昨年度の授業アンケート結果を受けて、今年度に工夫や改善を試みた授業科目名

回答を入力

①の内容を具体的にお書きください。

（例：文字が見にくいとの意見があったので、PPTの文字を大きくした。／=に開心を持った学生が多かったので、さらに詳しく説明するようにした。）
※去年の授業アンケート結果は残っていませんので、ご記憶のある範囲でお願いします。

回答を入力

②今年度の授業アンケート結果を受けて、来年度に工夫や改善を試みる予定の授業科目名

回答を入力

②の内容を具体的にお書きください。

（例：グループワークにあまり効果がなかったようだったので、やり方を工夫する予定。／設問2で「思考力」の回答率が高まるように、課題を工夫する予定。）

回答を入力

経営学部

(1) 「2024 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

2025 年 3 月以降に対象者を決定する予定です。なお、2023 年度の対象者は以下のとおりです。

<2023 年度前期>

樋口 友紀 准教授

三木 僚祐 准教授

<2023 年度後期>

針尾 大嗣 教授

木下 和紗 准教授

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

■授業公開の実施（前期・後期に各 1 回）

前期：2024 年 7 月 6 日（土）～ 7 月 19 日（金）20 名の教員が 40 科目を見学

後期：2024 年 11 月 28 日（木）～ 12 月 11 日（水）19 名の教員が 44 科目を見学

見学結果は授業参観シートとして回収し、授業担当者にフィードバックしました。

■学部 FD フォーラムの開催（年 2 回）

- ・第 1 回 FD フォーラム（2024 年 10 月 31 日（木） 17:30 ～ 18:40）

テーマ：新任教員の教育・研究内容について

講演者：石川徹先生

- ・第 2 回 FD フォーラム（2025 年 2 月 20 日（木） 10:30 ～ 12:30）

テーマ：経営学部強化プログラムの現状と課題について

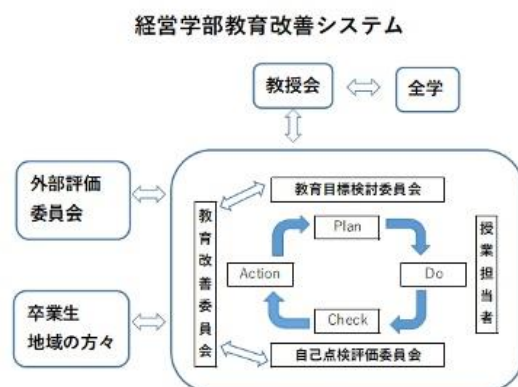
要旨：2023 年度から始まった経営学部強化プログラムについて、プログラム担当者からの現状の報告をもとに、学部教員間でプログラム改善の方向性について意見交換を行いました。

■授業アンケートへの取り組み

- ・学生の回答率向上のためアンケートに回答する時間を講義中に確保することを教員に依頼しました。
- ・教員のコメント率向上のためコメントを入力するよう教員に呼びかけました。
- ・「授業アンケート実施対象外科目」のうち実施対象とする科目の選定を行いました。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

経営学部では、教育に関する自己点検および評価を定期的に行い、教育改善につなげることを目的とした経営学部教育改善システムを構築しています。具体的には、「教育目標検討委員会（Plan）」、「授業担当者（Do）」、「自己点検評価委員会（Check）」、「教育改善委員会（Action）」の 4 つの機関を設置し、学部 FD 委員会は主に教育改善委員会を担当しています。これらの 4 機関の活動を順次繰り返すことで PDCA サイクルを実現します。つまり、学部 FD 委員会が実施した FD 活動（Action）の結果は、教育目標検討委員会による新たな教育改善の目標設定および計画立案（Plan）に反映されています。また、「外部評価委員会」、「卒業生・地域の方々」による第 3 者評価機関を設け、学部内外からの視点で教育改善に繋がる仕組み作りに取り組んでいます。



法学部

(1) 「2024 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

法学部内の手続きに則り、表彰者に対して次年度の研究費増額配分を決定しました。なお 2024 年度は島田准教授を表彰しました。

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

■ICT ツールの活用等に関する教員研修 2024 年 4 月 2 日（火）、5 月 30 日（木）

FD 委員会メンバーが、Teams 等の使用方法を新任教員に対してレクチャーし、授業のより円滑な実施につなげました。

■授業公開・見学の実施 2024 年 11 月 25 日（月）～12 月 6 日（金）

すべての法学部専任教員が、一つ以上の授業を公開、一つ以上の授業を見学しました。また、見学した授業についてコメントを書き、それをまとめて全教員に配布しました。

■FD フォーラムの実施 2025 年 2 月 4 日（火）

テーマ：「法学部オンデマンド講義、初年度を終えて一今後への試金石ー」

講師：法学部 萩原佐織 准教授

■4 年生（卒業生）に対するアンケートの実施

- ・対象：公務員やプライム市場上場企業等への就職者が中心（20 名程度）
- ・項目：進路を選択する上で役立った授業、オンライン授業のメリットやデメリットなど
- ・目的：数年間データを蓄積し（本年度で2回目）、授業改善（オンラインや対面の授業を行う上での留意点の抽出等）や、カリキュラムの改編等に役立てます。FD 委員会がデータを蓄積し、そのデータをもとに組織的な FD 活動の実践につなげます。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

学部で計画した教育改善に関する活動（Plan）を、授業担当者や学部内各種委員会で実施し（Do）、学部 FD 委員会で行うアンケート等などの評価指標を踏まえ、必要に応じて教務委員会等の学部内委員会や外部評価委員と連携し、実施した活動の評価や改善点を検討し（Check）、改善点を抽出します。抽出した改善点を、教授会（教員全体）に報告することによって、教育の改善を図る（Action）とともに、次なる活動計画を策定（Plan）します。現在、法学部 FD 委員会が中心となり、この PDCA サイクルを通じて、FD 活動を教育改

善に反映する仕組みの強化を図っています。具体的には、上記 4 年生に対するアンケート結果を法学教務委員長にも周知し、カリキュラムの評価に結びつける活動を実施しています。



経済学部

(1) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

「学生本位の教育」を実現するため次の FD 活動を実施しました。

■授業見学

2024 年 6 月 12 日（9 回目または 10 回目）～前期終了まで

2024 年 12 月 5 日（10 回目または 11 回目）～後期終了まで

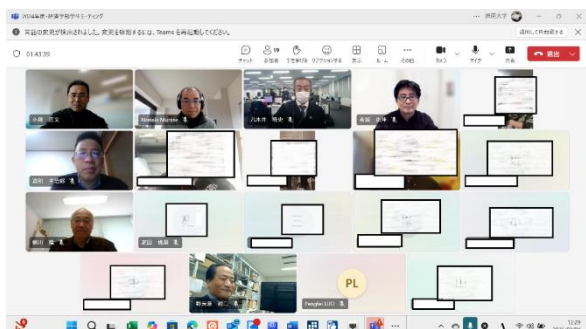
上記の期間中に授業見学を実施しました。前期に公開する教員と後期に公開する教員を決め、さらに公開できる講義及び講義回を指定していただきました。その上で、学部 FD 委員で分担して見学を実施しました。見学後には、Forms に所見を記入し、後述する学部 FD 勉強会の資料とします。これは、各講義の工夫や問題点について明らかにすること、そしてそれらの情報を教員間で共有することを目的としています。

<授業アンケートの回答フォーム／Microsoft Forms で作成>

■経済学部学生ミーティング

(2025 年 3 月 4 日（火）・11 時～12 時 30 分にオンラインで開催)

今年度は 10 名の学生が参加し、履修、講義内容、設備（バス、駐輪場、ロッカー、食堂、成績評価方法など）について、意見・要望を聞きました。特に今年度は、4 年次生にも集まっていただき、4 年間で振り返って意見を述べていただきました。これらの内容は、後述の FD 勉強会でも共有・議論をする他、意見のまとめを教務課等関係部署に送付する方針です。



<学生ミーティングのスクリーンショット>

■授業アンケートに基づく教員表彰 2024 年 3 月 13 日（木）

（教授会開催日／FD 勉強会に先立って開催）

<教員表彰対象者>

- ・ アンケート回答者数 10 人以上の科目
- ・ 経済学部常勤教員
- ・ 経済学部向け専門科目担当者

の条件を満たしたもののうち、下記の設問（Q5～Q7）の総合平均値が上位 2 つの授業を必修科目・選択科目から前期・後期それぞれ選びました。

前期

	講義科目名	教員名	履修者数	回答者数	平均点
（必修）	マクロ経済学Ⅰ	郭 進	145	78	3.82
	社会経済学Ⅰ	平尾 智隆	174	43	3.77
（選択）	中小企業論	野長瀬 裕二	36	14	4.07
	レジャー産業論	持永 政人	133	25	4.04

後期

	講義科目名	教員名	履修者数	回答者数	平均点
（必修）	地域経済入門	野長瀬 裕二	167	41	3.75
	地域経済入門	郭 進	156	79	3.73
（選択）	関西経済論	野長瀬 裕二	214	18	4.28
	簿記原理Ⅰ	朴 景淑	214	32	4.23

（敬称略）

■教員 FD 勉強会 2024 年 3 月 13 日（木）（教授会開催日）

経済学部学生ミーティングによる学生からの意見、授業アンケート結果（特筆すべき自由意見など）、授業アンケートの活用法、講義・演習での工夫、授業アンケートのあり方などについて、情報共有および議論を行いました。この他、次年度からの新カリキュラムについての説明会を開催しました。

<FD 勉強会／経済学部会議室にて>



（2）FD 活動を教育改善に反映する仕組み

2024 年度の経済学部の FD 活動は、①授業見学②学生ミーティング③教員 FD 勉強会、で構成されています。これらに加えて、大学で実施する授業アンケートの結果をあわせて、PDCA サイクルに組み込むことで、授業改善につながるものと考えています。

以下、各活動の詳細や位置づけについて説明致します。①の授業見学は、実際に講義を担当している教員の意見を聞いて、講義の問題点をチェックする機会と位置づけております。講義担当者でも受講者でもない第三者の所見なので、現実的な意見が期待できます。

②の学生ミーティングは、履修上の問題など、教職員からでは気付きにくい点を学生から聞くことができる機会となっています。また、3月卒業予定の4年生も参加することで、ディプロマ・ポリシーに対する評価を聞くことができます。また、在学生に対するメッセージを伝える機会にもなります。

③教員 FD 勉強会は、これら FD 活動から得られた情報の他、教員アンケートの自由記述欄にある特筆すべき意見についても共有し、さらに対応策・この後の取り組みなどを議論し、教育改善につなげるものです。

これらの一連の活動の流れとしては、FD 勉強会での議論によって次年度の取り組みを決め（Plan）、次年度に実際に取り組み（Do）、授業見学、学生ミーティング、授業アンケートに寄せられた意見によって問題点を確認し（Check）、年度末の FD 勉強会で情報共有を通して改善を図る（Act）、という流れになります。いずれも、「学生本位の教育」の実現に貢献するものと期待しています。

薬学部

(1) 「2024 年度 学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

薬学部では毎年「学生による授業アンケート結果」に基づき、4月または9月に開催される薬学部 FD・SD フォーラム内で表彰しています。選考にはアンケート回収率およびアンケート Q5～7の結果を用い、それらを総合的判断して薬学部 FD 委員会の審議を経て決定しました（2025 年 4 月の薬学部 FD・SD フォーラム内で表彰予定）。

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

教員の自主的な授業改善のため、「薬学部 FD ワークショップ」や「授業見学」などを実施しています。今年度も以下のように、「薬学部 FD・SD フォーラム」、前期および後期講義における「授業見学」「薬学部 FD ワークショップ」を実施しました。

■「薬学部 FD・SD フォーラム」：2024 年 4 月 4 日(木)および 2024 年 9 月 6 日(金) 実施

教育力の向上と円滑な教育体制下での学部運営の実施を目的として全教員および事務職員を対象に FD・SD フォーラムを開催しました。

■「授業見学」

全期間を通じて授業見学を促しました。今年度は新カリキュラムによる教育が始まった 1 年次生の科目に関して積極的な授業参観を依頼しました。また、これらの報告書をまとめたものを 2025 年 4 月の薬学部 FD・SD フォーラム内で配布し教員間で情報共有するとともに、授業見学報告書まとめの 1 年次生対象科目分や 1 年次生対象に薬学部独自で行った授業アンケートを用いて下記の FD ワークショップを実施しました。

■「薬学部 FD ワークショップ」：2025 年 3 月 1 日(土)

薬学部では、今年度から改訂された「薬学モデルコアカリキュラム」に即した新カリキュラムでの教育がスタートしています。それに伴い学生の「主体的な学び」を促進する様々な試みを導入しました。今年度の薬学部 FD ワークショップでは、これらの試みの情報共有と更なる改善を目指し、テーマを「摂南大学における今後の薬学教育について考える」としてワークショップを開催しました。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

一昨年より薬学部 FD 委員会での協議事項に基づき、授業見学の報告書を一覧表にして薬学部全教員に配布するとともに、4月および9月の「薬学部 FD・SD フォーラム」で授業改善に特に参考になる点などを継続的に紹介し、個々の教員の教育改善に役立てています。また、新カリキュラムで取り入れられた、一つの講義を複数の教員が担当するオムニバス形式の講義によって、一部の教員ではありますが、より積極的に授業見学に参加するようになりました。今後はこれをどのように組織的に進め

るのかについて薬学部 FD 委員会内で議論していきます。さらに、今年度は薬学部 FD ワークショップにて、新カリキュラムでの教育のスタートとともに取り入れた学生の「主体的な学び」を促進する様々な試みに関して、有効性や改善点を教員間で議論、共有し、薬学部全体としての教育改善を目指しています。



看護学部

(1) 「2024 年度 学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

授業アンケート、実習アンケートの結果を基に、教員表彰を毎年行っています。2024 年度のアンケート集計結果に基づき、2025 年度 4 月の全体会で表彰予定です。

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

【ミッション】

- ①教員活動の公開・評価の実施と教育内容及び方法の改善
- ②授業・実習アンケートの実施
- ③授業改善のための研修会の実施
- ④全学委員会及び学部各委員会や外部機関との連携
- ⑤教員の研究活動の活性化

【実績】

■授業公開・見学：今年度中に最低 1 回の授業見学を呼びかけ、実施中です。

■学部 FD 研修会

1. 2024 年 8 月 6 日（火）

「AI を使いこなすための知識と心構え」をテーマに大阪工業大学情報科学部 鈴木基之教授を招いて開催し、42 名が参加し、盛況に終わりました。事後アンケートでは 100%が「満足またはやや満足」と回答しました。

2. 2025 年 3 月 17 日（月）13 時 30 分～

「看護学の知の構築－理論・研究・実践の連環」をテーマに兵庫県立看護大学看護学研究科の坂下玲子教授を講師に迎え開催予定です。

3. 2024 年 4 月 2 日（火）

学部全教員が集まる全体会で、学生委員会と連携して「学生対応における課題の共有とあり方について学ぶ」をテーマに FD 研修を行いました。

■授業アンケート回答促進、教員のコメント率向上の取り組み

- ・今年度も学生の回答を促すため、各教員に授業アンケート実施を呼びかけ、QR コードを配付し活用するよう周知しました。またコメント記入を教員に呼びかけました。

- ・ 授業・実習アンケートの質向上のため、学部内教員を対象にアンケート調査を行いました。その結果、様々なアンケートの質改善、回答率改善への意見が寄せられました。

■学部独自の実習アンケートの実施

- ・ 実習科目全てを対象にアンケートを実施しました。結果は教員間で共有し、学生へフィードバックを掲示しています。今年度は質問項目の点検も行いました。

■その他、学部として以下の取り組みをしています。

- ・ 2024 年度看護学部自己点検・評価書を作成中です。あわせて 2025 年度に日本看護学教育評価機構の第三者評価を受審する予定です。
- ・ 年度末に学生懇談会を開催し、学生の意見や要望を今後の看護学部運営に役立てます。前回は 2024 年 3 月 17 日に実施し、学生の意見を教授会や全体会で共有しています。2024 年度も 2025 年 3 月 27 日に実施予定です。
- ・ 外部評価の一貫として、実習施設の指導者を招いて共に研修や懇談を行う臨地実習指導者研修会を毎年行っています。2024 年度は 3 月 13 日に 45 名の外部実習施設指導者の参加を予定し、アドラー心理学に基づいた指導法の研修や小グループでの教員との懇談を予定しています。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

看護学部では、以下に示す仕組みにより FD 活動を教育改善に反映し、構築しています。図に示すように、青枠内が学部での活動で、学部 FD 委員会での計画事項（Plan）を、授業や実習担当者が実践し（Do）、その内容について FD 委員会でアンケート結果等を提供し、それらを踏まえて、カリキュラム検討委員会・教務委員会・実習委員会にて確認・評価、改善点を検討し（Check）、改善に向けての実践を各委員会・教員が考え改善に取り組みます。その活動の評価は、学部評価機関のみならず、卒業生や実習施設へのアンケートや地域の人々や様々な組織機関の声を通して、第三者の評価として、さらなる教育改善の参考にします。それらを踏まえ、次なる FD 委員会の活動を計画します（Plan）。このような PDCA サイクルを通して、看護学部では FD 活動について、教育改善に反映する仕組みを構築しています。

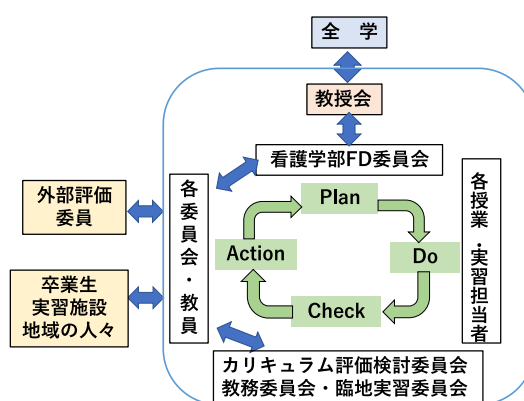


図. 看護学部の FD 活動を教育改善に反映する仕組み・構築

農学部

(1) 「2024 年度 学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

講義中の時間を利用してアンケートの趣旨説明とアンケートに回答する時間の確保を教員に依頼しました。また、授業アンケートの回答項目を利用して、改善が顕著であった講義担当の教員の表彰に継続して取り組んでいます。

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

■「授業参観」の実施

授業参観の実施方法について農学部 FD 委員会で話し合いをもち、実施要領を以下のように設定しました。

- ① 実施期間を 11 月下旬の一週間に区切る。
- ② 予め FD 委員が選定した各学科 2 名（若手とベテラン 1 名ずつ）の教員の授業に最低一度参観することとし、予め Forms を通じて申し込む。
- ③ 参観した教員は Forms を通じて参観の感想を書く。ただし、批判めいた感想ではなく、気づきに繋がった点、取り入れてみたいと思う点など、ポジティブな意見を書いてくださいと予めお願いしておいた。
- ④ Forms に寄せられた回答に特に問題が無ければ各教員にフィードバックする。

以上の話し合いの結果を全教員にお知らせし、11 月下旬の授業参観ウィークに参観してもらいました。

その結果、対象教員 61 人中 57 人が参観（93.4%）、4 人が 2 回参観、あとは 1 回の参観でした。

ほぼ全員からアンケートへの回答を得ました。「普段他の教員の授業を見る機会がないので、たいへん貴重で気づくことが多かった」など、前向きで良い試みであるとの評価がほとんどでした。

一方で、参観期間が短すぎるのももう少し余裕をもって開催して欲しい、いつでも好きな時に見に行くことができるように制度化して欲しいとの意見も多くありました。

■ワークショップ開催の検討

他学部で行っている授業改善を目的としたワークショップの開催について農学部 FD 委員会で話し合ったが、具体的な提案をまとめるに至らず、次年度以降に引き続き検討することとなりました。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組みについて

農学部各種委員会で企画・立案・検討した事項を、教授会等で承認したのち、全教員・構成員で実行し、実行した取り組みを、自己点検評価委員会や外部評価委員会で評価・検証することとしていますが、昨年度から大きな進展はありませんでした。

現代社会学部

(1) 「2024 年度学生による授業評価アンケート実施結果」を活用した教員表彰

前期・後期の授業評価アンケート結果をもとにして、下記の上位者 2 名を 3 月 13 日の教授会で報告し、表彰しました。

1. 竹端 佑介 准教授 「臨床心理学」
2. 谷 めぐみ 講師 「地域スポーツ論」

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

- ① 2024 年度は学部開設 2 年目にあたるため、学部独自のより実質的な FD 活動を実施していくことを年度初めに決めました。その内容は、一つは授業運営における改善を全教員で討議し、学部としてのより良き授業やゼミの姿の実現をめざすということであり、今一つは授業の技術的改善ではなく社会学を学生が学んでいくうえの基本となる社会理解や社会問題理解の場を提供し、学生だけでなく教員も学び研修することで、教員の社会学理解を深めるということです。
- ② 授業運営における改善を全教員で討議する場として、2024 年 10 月 15 日に教員懇談会を実施しました。そこでは 2023 年度授業評価アンケートで高評価だった 2 教員（上野山裕士講師と好井裕明特任教授）から自らが実践してきた授業における工夫を報告してもらい、その後報告内容をめぐる質疑応答をしまし

た。さらに卒業論文ゼミの運営など今後の授業やゼミのあり方などを自由に意見交換しました。上野山講師が提示された問題提起として「じぶんごと」で考えるための授業運営は、学生がいかにして授業で示される内容を「じぶんごと」として捉え理解するために教員は何を工夫していくべきか、その可能性を拡げることができ、きわめて有意義なものでした。こうした教員懇談会を次年度もさらに拡充していきたいです。

- ③ 社会学を学生が学んでいくうえでの基本となる社会理解や社会問題理解の場を提供し、学生だけでなく教員も学び研修する場として、2024年12月9日（月）に学外より吉村さやか先生（日本大学助手）をお迎えし、講演会と研修会を実施しました。講演会は3時限の2年生必修科目「日常生活世界論」の一環として実施したが、全学教職員にも告知し参加可能としました。吉村先生は髪がない女性として当事者の視点から外見差別や「見た目問題」を研究されており、講演のテーマは「生きる力としての社会学—外見差別と日常性批判を中心に—」でした。250名以上の学生と教職員が熱心に吉村先生の語りに耳を傾け、自分にとって響く内容をノートしている光景があり、講演に集中していた学生が多かったことが印象的でした。さらに5時限に学部教員対象の研修会を実施しました。そこでのテーマは「外見差別の社会学—現状と展望—」でした。吉村先生はご自身の生活史を語り、外見差別を受ける当事者としての自覚や髪がないことへのご自身の認識や理解の変容を語り、そのうえで外見差別の社会学という新しい研究領域の知見や当事者運動との関わりを語り、そのうえでご自身の最新研究実践の成果の可能性を語られました。学部教員からは多様な問いや意見が出て、有意義な討議ができました。もう少し時間に余裕があれば、さらに研修が深められたという思いがあり、これは今後の研修の参考にしたいです。
- ④ 本学部教員全員が参加し担当する科目として FAL（フィールド型—アクティブ・ラーニング）があります。この科目は従来の社会学関連科目にはなかった本学部独自かつ初めての試みです。この科目をより円滑かつ実効的に進めていくために FAL 委員会を設定しています。前期（FAL 入門、FAL 演習（通年科目））、後期（FAL 実践）という授業を遂行する上での様々な問題が議論・検討され、改善策が検討されています。この活動は本学部独自のものであり、昨年度よりも今年度はさらに活発な活動が展開されました。昼休みの時間を活用し対面とオンラインで毎月「アクティブラーニング研究会」も新たに実施しました。そこでは毎回演習を運営していくうえでの問題が提起され、自由な討議が重ねられています。
- ⑤ FAL 関連科目以外に「現代社会の諸問題」や「現代社会学入門」は教員全員が担当するオムニバスであり、それらの進め方や内容など含め、適宜、会合を持ち、調整しました。

(3) FD 活動を教育改善に反映させる仕組み

- ① 授業アンケートによる教員表彰に関しては、ただ教員を表彰し、各教員の授業に対する意欲を高めるだけでなく、昨年度表彰された2教員からの話題提供を受け、教員懇談会を実施しました。この懇談会は次年度も同様に実施していく予定です。
- ② Live!アンケート（リアルタイムのWEBアンケートシステム）について、昨年度は導入することを学部で決めたが、今年度は複数の教員が授業で活用し始めています。その効果やさらなる利用の仕方も含めて、次年度以降、有機的な授業改善をめぐる重要なトピックとなります。
- ① ③(2)ですでに述べたとおり、FAL 委員会や教員懇談会は授業運営や学生教育などで個別教員が感じた問題点を教員同士で話し合い、それを共有できる空間です。そこでは率直な議論を重ね、よりよい解決策や授業運営や学生教育の手法などが模索されています。各教員はここで得られた知見をもとにして授業改善をめざしています。本学部では、こうした教員相互の議論空間を次年度以降も実践していく予定です。



*写真は、2024 年 12 月 9 日に開催された吉村さやか先生（日本大学助手）による講演会の様子です。吉村先生の熱意ある誠実な語りを学生たちが熱心に聞き取ろうとしている姿勢が見て取れます。

全学教育機構

2023 年 4 月より新しい組織となりました。それまでは、全学 FD 研修会の主催・運営などを中心に行っており、所属教員の多くがファシリテーターとして活動していました。2024 年度は、各分野ならびにセンターが個別に専門教育に特化した形で実施しているので、その内容を報告します。なお、2025 年度以降は、全学教育機構として、教育専門分野を凌駕した共通課題を見出し、研修を行う予定です。

情報系 FD 研修

寺内 睦博

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度に向け、本学の情報教育のあり方を見直すため、時間の許す限り不定期ですが、議論を重ねてきました。情報系科目の見直しが優先されるため、科目内容のみならず、シラバスの統一を図り、オンデマンド化への試みにおいては学習者である学生への対応など、議論は尽きませんでした。また、「大学教養入門」のハンドリングを行っているのは情報系教員が主であることから、教材開発、授業運営、問題点の抽出と改善、評価方法と採点方法の統一などの課題をもとに、高等教育での新たな科目の見直しを試みました。

主に、以下の通り行ないました。

	項 目	内 容	時 期
1	情報系非常勤講師との打合せ	授業の進め方や資料の利用について	2024.3～2024.4
2	「コンピュータビジョン入門」の進め方	授業進行や課題内容について	2024.4～2024.9
3	「大学教養入門」の評価方法について	シラバスに基づく評価の方法について	2024.6～2024.8
4	次年度の情報リテラシー関連科目について	OS リプレイスに伴う授業内容の変更について	2024.9～2024.12
5	「データサイエンス基礎」の内容検討	生成 AI の取り扱いについて	2024.10～2025.1
6	生成 AI の教育手法に関して	テーマ設定や方法論について	2024.11～継続中
7	次年度の「大学教養入門」の進行について	学習内容と進行について	2024.12～2025.2

キャリア系 FD 研修

石井 三恵

キャリア系科目の担当者に若手教員が入職をしたことを機に、キャリア教育全般の内容の見直しを共に行いつつ、学生へ提示するトピックのポイントの周知など、常に学びの場を設けてきました。また、学生指導の対応方法や課題を発見した場合の相談の場を設けるなど常にコミュニケーションを図ってきました。

その一方で、授業展開に慣れてきた後期より研究会「キャリゼミ」を始めました。各自の専門領域が異なることから、その学びを共有しつつも議論する場を設けました。各自の研究から話題提供し、内容はもちろんのこと、話し方や態度に至るまで周囲から指導を受けることは、新たな視点を手にするだけでなく、学生の気持ちも理解することにつながるからです。授業の合間で共通する空きコマから 1 コマ（90 分）しか時間が取れませんでした。計 5 回実施することができました。互いに深い学びの時間を共有することができました。

	日程	担当者	内容
1	2024.10.15	加納 佑弥	自己効力感理論とオンデマンド動画教材
2	2024.10.30	坂口 有芸	日本語指導と担任との関係性①
3	2024.11.20	水野 武	若手従業員を取り巻く人的ネットワーク
4	2024.12.3	加納 佑弥	シティズンシップ教育とサービス・ラーニング
5	2024.12.11	坂口 有芸	日本語指導と担任との関係性②

教職支援センター

西村 晃一

(1) 「2024 年度 学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

教職支援センターは、各学部と兼任の教員（兼任先：国際学部、農学部、看護学部）もいるため、教員表彰は実施できておりません。その上で、各学部と同様に、第 14・15 回の授業時間を活用して学生による授業アンケートを実施しました。また、得られたデータを参考に、授業改善に活かせるよう分析を進めました。

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

①全学 FD セミナー

12 月 14 日(土)に開催された「教育現場での生成 AI 活用リテラシー：教員と学生の実践例から学ぶ」についてアナウンスを重ね、多数の先生方に参加していただくことができました。また、FD 委員会が主催する各セミナーについても積極的に参加いただき、前向きな意見を頂戴することができました。今後は全学教育機構と連携して、企画側にも携われるように準備を進めたいです。

②授業公開と授業見学

教職支援センター教員内でも、相互に授業公開と授業見学を実施しました。また、今年度は、外部講師を招いた際、Teams「教職課程履修者（全体）」でも周知を行い、当該授業の履修者以外でも学びの場を提供できるよう情報共有を行いました（前期：ポジティブ行動支援の基礎・基本、後期：生徒指導論等…）。

(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

①全学 FD 研修（新任研修）について

6 月 15 日に実施された第 1 回新任研修（オリエンテーション）では、「主体的・対話的で深い学びの推進」と「シラバス作りのポイント」について講話を担当しました。研修実施に先立ち、教職支援セン

ター内でスライド作成や内容を精査し、質の高い学びが保障できるよう工夫を凝らしました。また、昨年度より継続して授業デザインワークショップ動画の修正に着手しています。今年度はその一部を公開し、ご覧いただいた先生方からもポジティブな感想をいただくことができました。

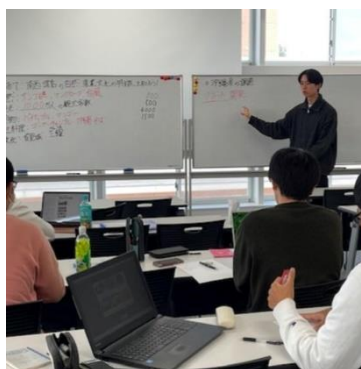
②教職系サークル“教育 Lab”について

昨年度より、教職を志す仲間が集う教職系サークル“教育 Lab”を立ち上げ、2年目となりました。教員が実施する教員採用試験対策のみならず、学生同士で企画立案を行い、切磋琢磨できる環境を整備することで、教育の質と教育力の向上を目指しました。その結果、昨年度に比べて合格者が増え、なかなか一度では突破できない高等学校教員の区分でも現役合格者を輩出することができました。今後も、学生のニーズを把握し、適切に支援・援助していきます。

教育 Lab の活動（4年生による教員採用試験対策講座）



面接対策



模擬授業対策

スポーツ振興センター

(1) 「2024 年度学生による授業アンケート実施結果」を活用した教員表彰

- ・ アンケート結果による教員表彰は実施していません
- ・ アンケートの結果については学部、学科、担当教員、経年で比較・分析し、教員に個別でフィードバックを行っています（フィードバックは3月に実施）

(2) 2024 年度 FD 活動のミッションおよび実績

【ミッション】

- ・ 「教育の理念」の実現を目指すため、スポーツの様々な教育効果を活用した教育手法の計画・実行・改善
- ・ スポーツ振興センターによる授業アンケートの実施（アンケート回答率を向上させる＋アンケート結果の活用）

【実績】

- ・ スポーツ実習における授業手法勉強会 9月12日（木）/12月6日（金）
- ・ スポーツ振興センターによる授業アンケート（12月～1月）
- ・ 課外活動団体によるスポーツを通じた実践学習イベント
- ・ SETSUDAI SPORTS TRIAL 2025年2月15日（土）
- ・ 小中学校を対象とした指導会（柔道部・月例）（ラグビー部・不定期）
- ・ 専任教員、非常勤講師による合同研修会 2025年3月11日（火）



(3) FD 活動を教育改善に反映する仕組み

- ・ 専任教員、非常勤講師による合同研修会の実施
- ・ スポーツ振興センターによる授業アンケートの実施とフィードバック
- ・ 毎月第3木曜日に「スポーツ振興センター運営委員会」、同火曜日に「スポーツ振興センター教室会議」を定例で開催。主に大学・大学院運営会議、教務委員会、FD 委員会、学生委員会からの報告事項を共有し、授業計画や授業手法の改善に反映させています
- ・ 課外活動団体によるスポーツを通じた実践学習イベント（指導会）は出席者と保護者へのアンケート実施とフィードバック
- ・ スポーツ実習における授業手法の勉強会を年2回程度開催

摂南大学 WEB サイト FD 活動報告ページに詳細を掲載

FD ニュースでは、年度内の活動を紹介しています。

詳細はホームページ内の FD 活動のページをご覧ください。

<https://www.setsunan.ac.jp/>